

2012 08 02

関係各位

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
共同代表 緒方 俊一郎
岐部 明廣

前略失礼します。今年の梅雨は陽性であり期間も長く郡市に多くの被害をもたらしました。私たち手渡す会は、この梅雨の豪雨のうちの6月24日、7月12日の二つの降雨について調べ、後者の洪水被害については現地を踏査し、被害の原因と対策をまとめました。

これらを現在行われている「ダムによらない治水を検討する場」の参考資料としていただくことをお願いいたします。

**球磨川水系流域における
《 7 月 12 日 》
九州豪雨による災害と対策**

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 緒方 俊一郎

共同代表 岐部 明廣

球磨川水系流域

7月12日熊本豪雨

7時~13時までの7時間雨量



2012年 7月 12日

球磨川水系流域の雨量

	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時
葉木	35	23	39	39	8	0	0
開持	16	37	33	42	15	2	0
仁多尾	33	27	39	42	12	2	0
平沢津	32	42	48	55	26	1	1
五木宮園	32	39	51	68	50	3	8
梶原	25	23	59	71	77	11	24
出る羽	30	66	60	63	40	13	8
椎葉	16	21	56	10	87	41	40
山手	10	9	42	4	58	21	30
四浦	8	6	35	2	33	56	57
人吉	5	11	16	1	7	23	8
田代川間	3	5	8	2	2	9	11
大畑	4	5	9	13	45	18	14
大川内	13	27	47	12	81	81	26
大槻	13	27	33	6	95	82	24
神瀬	14	39	16	13	117	62	11
岳本	5	12	16	6	15	42	5
上西	2	4	13	3	2	50	12
多良木	4	23	18	9	20	34	20
宮ヶ野	7	7	28	7	19	37	46
黒原	2	5	10	7	5	33	8
湯前	4	21	15	8	16	49	10
湯山	5	31	29	28	27	36	17
千ヶ平	15	14	24	64	82	9	14
小麦尾	29	20	45	77	81	7	18

● どしゃぶり
 ● バケツをひっくり返した
 ● 滝のような
 ● 息苦しい

《水位状況》

四浦	最高増水	9時～10時	219 cm	最高水位	12時	802 cm
人吉	最高増水	11時～12時	101 cm	最高水位	15時	303 cm
渡	最高増水	12時～13時	301 cm	最高水位	15時	846 cm
大野	最高増水	12時～13時	289 cm	最高水位	15時	1168 cm

* 最高水位は時間単位で記録したもので、実際の最高水位とは若干のずれあり *

2012 年 6 月 24 日

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
仁 田 尾	21	15	14	44	22	23	28	0	10	3
葉 木	20	14	18	52	20	22	29	0	8	5
平 沢 津	18	17	17	37	25	38	26	0	10	3
五木宮園	17	9	8	19	11	31	16	1	4	23
梶 原	16	10	4	19	28	40	18	1	3	2
出 る 羽	19	9	12	22	22	51	22	0	8	8
椎 葉	14	10	5	27	37	31	15	1	4	2
四 浦	16	13	3	38	31	9	7	0	10	2
人 吉	13	13	1	9	7	1	8	1	3	1
田代川間	15	20	17	19	23	3	1	0	0	0
大 畑	12	29	17	18	7	3	7	1	1	0
田 野	16	38	15	16	7	7	8	1	1	0
大 川 内	12	7	5	21	35	23	21	8	1	1
大 槻	10	6	4	23	23	7	14	2	3	0
岳 本	14	4	5	37	7	7	7	5	1	0
上 西	11	28	12	17	6	4	14	17	1	0
多 良 木	10	11	2	14	30	4	15	1	1	0
宮ヶ野	18	15	4	29	36	10	8	0	7	2
黒 原	13	22	14	17	7	7	20	0	3	1
湯 前	12	12	1	17	31	4	19	11	4	2
小 麦 尾	19	13	4	15	32	43	24	8	3	2
人吉水位	38	64	99	128	155	200	241	276	299	295

防災を考える上で重要な一つの現象

	6月24日4時～10時7時間雨量	7月12日7時～13時7時間雨量
仁多尾	167mm	155mm
葉木	175mm	144mm
平沢津	178mm	205mm
五木宮園	111mm	251mm
梶原	135mm	290mm
出る羽	157mm	280mm
椎葉	153mm	271mm
山手	121mm	174mm
四浦	128mm	194mm
人吉地点水位	12時 299cm	15時 303cm

ここでは川辺川流域に注目して「豪雨による災害」の問題を考えてみることにします。豪雨の多くが川辺川流域に集中している特徴があるからです。

6月24日の雨量に対し、7月12日は非常に沢山の雨が降っています。それでも、人吉地点の水位は殆ど変わっていません。しかも、6月24日以降零点高（水位0cm）あたりを上がったたり下がったりで、平水に戻ることはありませんでした。（平水は-100cm前後）これは球磨川水系の治水を考える上で非常に重要な現象の一つですがここでは省略して、もっと大切な問題を考えてみることにします。

6月24日と7月12日の決定的な違いは相良村・五木村の災害の起き方の違いです。梅雨前線の長期にわたる停滞がもたらす流域の深刻な災害は何であるかが具体的に見えてきます。これは基本高水の治水論では全く解決することのできない深刻な災害です。

流域住民は具体的にどんな災害は発生しているのかを正しく知り、なぜそのような災害が発生するのかを現実的に即して分析することが流域の市町村に課せられた最も大切な仕事であると考えています。

山と川、森林と川は別々に存在しているものではありません。一体として存在しているものです。これに対応する側も縦割りの行政を乗り越え、一体となって取り組む必要があります。

2012 年 7 月 12 日 球磨川水系流域の災害

山地はガタガタ



明神岩トンネル入り口の崩壊



砂防を乗り越えた山地崩壊



元井谷 道路の決壊



危険な状態にある頭地の砂防

異常な堆砂と耕作地災害



平川橋下流の異常堆砂 ◇ 上流から流れて来た洪水が盛り上がり、耕作地に乗り込んで煙草をなぎ倒したり、多量の土砂を積み上げた

球磨川水系流域の豪雨災害を防止する対策

《Ⅰ》 7月12日豪雨災害から学ぶこと

人命を脅かす山地崩壊

球磨川水系は地殻変動の激しい地域であり、暮らしを支えてくれる大地は非常に脆い地盤です。少しの大雨でも土砂災害を引き起こしてしまいます。梅雨の時期になると土砂災害による死者が続出しています。一瞬にして起こる災害だからです。

梅雨前線による雨といえば1時間に50mm以上（滝のような雨）や1時間に80mm（息苦しくなってしまう雨）も全く珍しくなくなっていました。天気予報でも、真っ先に「土砂災害にご注意！」を取り上げるようになっていきます。

しかし、この山地崩壊も詳しく見てみると、ある重要なことに気づかされます。土砂災害といえば、いかにも自然現象のように見えますが、人間の開発のあり方が深く関わっているということです。

脆い地盤であることを無視して開発を進めてしまったり、脆弱な地盤の上にモヤシ林と呼ばれるようなスギ・ヒノキの人工林をつくってしまったりしているところが豪雨でいち早く崩されているのです。

球磨川水系流域の山地は深層崩壊の最も危険度の高い地域に指定されているほど、流域の山地は脆い地盤なのです。水俣の土石流災害も深層崩壊と言われています。

7月12日の九州豪雨により、流域のいたるところがガタガタと崩れおちたことは心に留め置かなければなりません。

皆が心配していた通りの事態が発生

板木ダム決壊で多量の土砂が川に流出した。皆の心配は、この土砂を放置したままであれば、大きな洪水が発生したとき、この土砂が必ず悪さをするということでした。それが的中しました。

私たちは、「検討する場」に対しても、ダム決壊により川に流れ込んだ土砂の浚渫の早急の実施を求めた意見書を提出しました。しかし、板木ダムの再建設はすすんでも、多量の土砂はそのまま放置されたままでした。

7月12日には、川辺川水系の流域にも異常な豪雨が降り注ぎました。この豪雨で発生した洪水が川に堆積していた多量の土砂を耕地に運び込んだのです。

人間の都合だけを川に押し付ける開発を進める限り、人間に降り注ぐ災害は無くなることはありません。

《Ⅱ》 豪雨災害防止対策

森林の保全がなにより急務

球磨川水系の流域の山地を見て回りますと、広域の皆伐がいたるところにあり、モヤシ林と呼ばれる人工林がいたるところにあります。ガタガタの山地に最も大切なものはしっかり大地に根をはびこらす天然林です。

国有林・県有林はすべて天然林に再生させ、野生動物も含めた生態系の豊かな森林として保全することが急務となります。その際、高い専門性を身につけた森林保安官の配備も必要になります。

人工林は可能な限り、混合林に変えていく必要があります。山地崩壊や土砂流出を防御する上で非常に大切なことです。ヒノキの人工林には落葉もなく、ヒノキ以外の植物は生えておらず、土壌がむき出し状態になっています。山地崩壊が岩盤が脆い上に造られたヒノキのモヤシ林に多くみられるのは当然といえます。勿論、手入れなしのヒノキ林は他の森林に比べ、川へ多量の土砂を流出させています。

急斜面に放置されているモヤシ林は天然林に再生させていく必要があります。

先送りは許されない浚渫工事

本来、川は浸食・運搬・堆積という作用で自由に流れを変え続けているものです。氾濫原や湿地帯も川の重要な一部です。その川を人間の都合で固定化し、氾濫原も湿地帯も川から取り上げて耕作地や宅地にしてしまいました。

固定化すれば、川の中に多量の土砂を積み上げ、洪水時にはその土砂を洪水と共に川の外に運び出します。

川を固定化したのは人間です。人間が川の中に堆積した土砂を取り除かないかぎり、川は暴れ川に変貌します。浚渫は先送りが許されない重要な工事なのです。

地形や地質を無視した奥山や里山の開発は止めよう

球磨川流域は断層だらけ、岩盤は亀裂だらけと非常に脆い地盤でしかありません。山地崩壊や崖崩れが絶えないのは球磨川水系の流域が地殻変動の激しい大地に位置しているからです。

コンクリート安全神話など存在しないことは最近の大型の災害が教えてくれています。近年、水俣で発生した土石流災害も安全神話の存在を否定しました。

地域の地形や地質に対応した村づくり・町づくりに取り組むことがなにより重要なことです。ハザードマップが飾りものではなく、住民の生活に生きるようにすることも大切な課題です。

相 議 第159 号の2

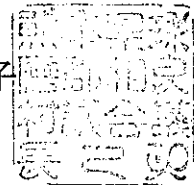
平成24年11月 / 日

国土交通省

九州整備局長 吉 崎 収 様

熊本県球磨郡相良村議会

議 長 小 善 満 子



川辺川の河川改修を求める意見書

地方自治法第99条の規定より議決した意見書を平成24年11月
 / 日付けで関係省庁に提出しましたのでご報告致します。

川辺川の河川改修を求める意見書

川辺川は今年も国土交通省の調査で水質日本一の清流と認められ、平成 19 年から 6 年連続で認定されました。清流川辺川は相良村民の誇りであり心のよりどころでもあります。この清流川辺川を未来へ手渡すのは相良村民の責務であると考えております。

国及び熊本県は「ダムによらない治水対策を求める」方針を示されました。

しかしながら、川辺川は度重なる洪水を招き、特に今年の 7 月 12 日の豪雨による洪水災害では、家屋の床上、床下浸水や 60ha におよぶ水田が冠水や流失に見舞われ甚大な被害を与えました。

また、村内の国道、県道、村道、農道等の道路網も冠水、路肩の崩壊等で寸断され日常生活に多大な支障をきたしました。

その後、国に置いては、未だ具体的な対策が取られていない所が多々ありますので、国・熊本県におかれましては河川整備基本方針、河川整備計画等に基づき、川辺川流域住民が安心して生活できるよう一刻も早い治水対策を実現することを要望致します。

記

1. 堆積砂利掘削を恒常的に実施すること。
2. 堤防の修復及び嵩上げをすること。
3. 冠水常襲地帯を解消すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 24 年 11 月 1 日

熊本県球磨郡相良村議会議員 小 善 満



国土交通大臣 羽 田 雄一郎 様

平成24年度 梅雨前線豪雨(7月12日)による農業関係被害調査(字別面積)

番号	大字	字	字別 冠水被害面積	備 考
1	四浦	宮ノ下	2,437 m ²	
2	四浦	平川	26,335 m ²	
3	四浦	上平川	5,052 m ²	
4	四浦	上平	1,360 m ²	
5	四浦	尾崎	7,718 m ²	
6	四浦	深水	1,403 m ²	
7	四浦	池津留	14,346 m ²	
8	四浦	下椎葉	553 m ²	
9	四浦	小栗毛	1,552 m ²	
10	川辺	小森	12,693 m ²	
11	川辺	蜻木	73,312 m ²	
12	川辺	八王	35,578 m ²	
13	川辺	上園	1,155 m ²	
14	川辺	萩原	24,167 m ²	
15	川辺	桑木原	1,457 m ²	
16	川辺	不動野	775 m ²	
17	川辺	中廻	4,650 m ²	
18	川辺	中州	4,670 m ²	
19	川辺	高尾	9,899 m ²	
20	川辺	上黒石	15,833 m ²	
21	川辺	下黒石	31,727 m ²	
22	川辺	雨宮鶴	50,773 m ²	
23	川辺	大柳	51,261 m ²	
24	川辺	石坂下	6,720 m ²	
25	深水	下鶴	38,315 m ²	
26	深水	棚葉瀬	20,216 m ²	
27	深水	新村	12,914 m ²	
28	深水	馬場	15,129 m ²	
29	深水	渡瀬	13,155 m ²	
30	深水	買元	13,201 m ²	
31	深水	台原	16,611 m ²	
32	深水	植竹	9,588 m ²	
33	深水	大曲	5,953 m ²	
34	柳瀬	九反田	4,341 m ²	
35	柳瀬	中州	76,071 m ²	
36	柳瀬	二反田	3,366 m ²	
37	柳瀬	大曲	134 m ²	
合計			614,420 m ²	



1:25,000

0 350 700 1,400 2,100 2,800